

# GHGプロトコルに則った 温室効果ガス排出量の公開

経営企画部  
環境安全企画室

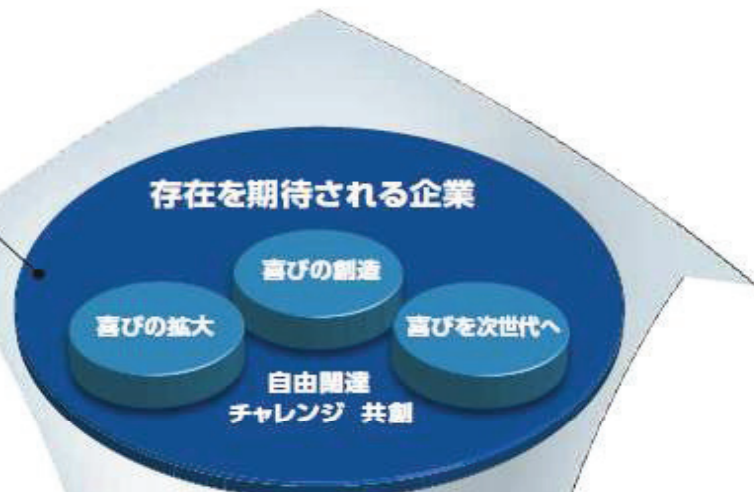
室長 **篠原道雄**



Honda グローバル  
ブランドスローガン



21世紀の方向性

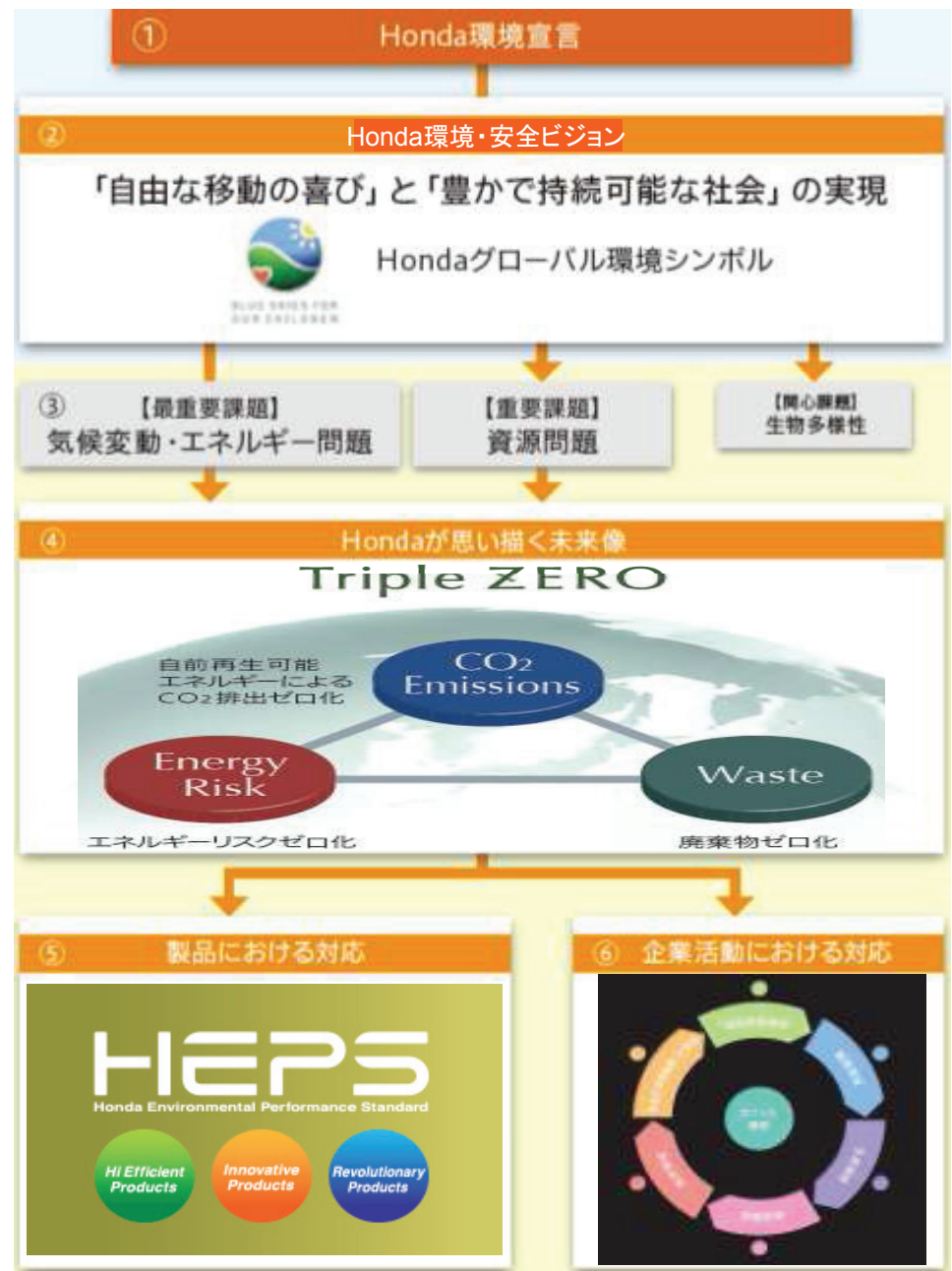


CSRの重点テーマ



ステークホルダー

Honda フィロソフィー



## 「自由な移動の喜び」と 「豊かで持続可能な社会」の実現

Realizing “ the joy and freedom of mobility ” and  
“ a sustainable society where people can enjoy life ”

Hondaは、2020年に向けて「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」という方向性を定め、また、すべての人が、心から安心して、どこへでも自由に移動することができる社会をつくることを目指して、「Honda環境・安全ビジョン」を定めました。このビジョンには、パーソナルモビリティに関わる製品・サービスを通して、お客様に感動を提供し続け、社会の永続的な発展と調和に貢献していきたい、というHondaの強い想いが込められています。



**Safety for Everyone**

すべての人の安全をめざして

Hondaグローバル安全スローガン・ロゴ



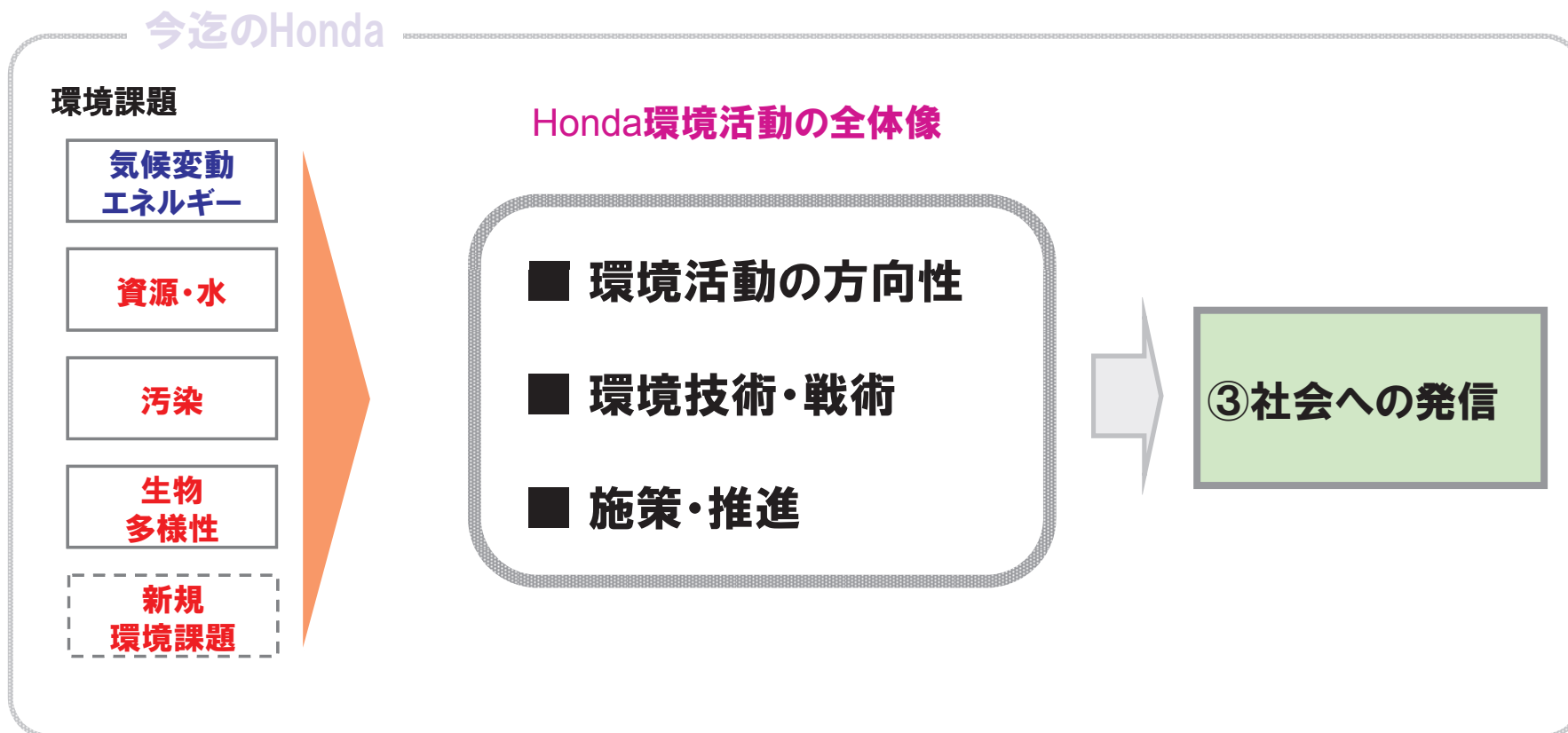
BLUE SKIES FOR  
OUR CHILDREN

子供たちに青空を

Hondaグローバル環境シンボル

●社会の評価軸(≡ 社会からの要求)

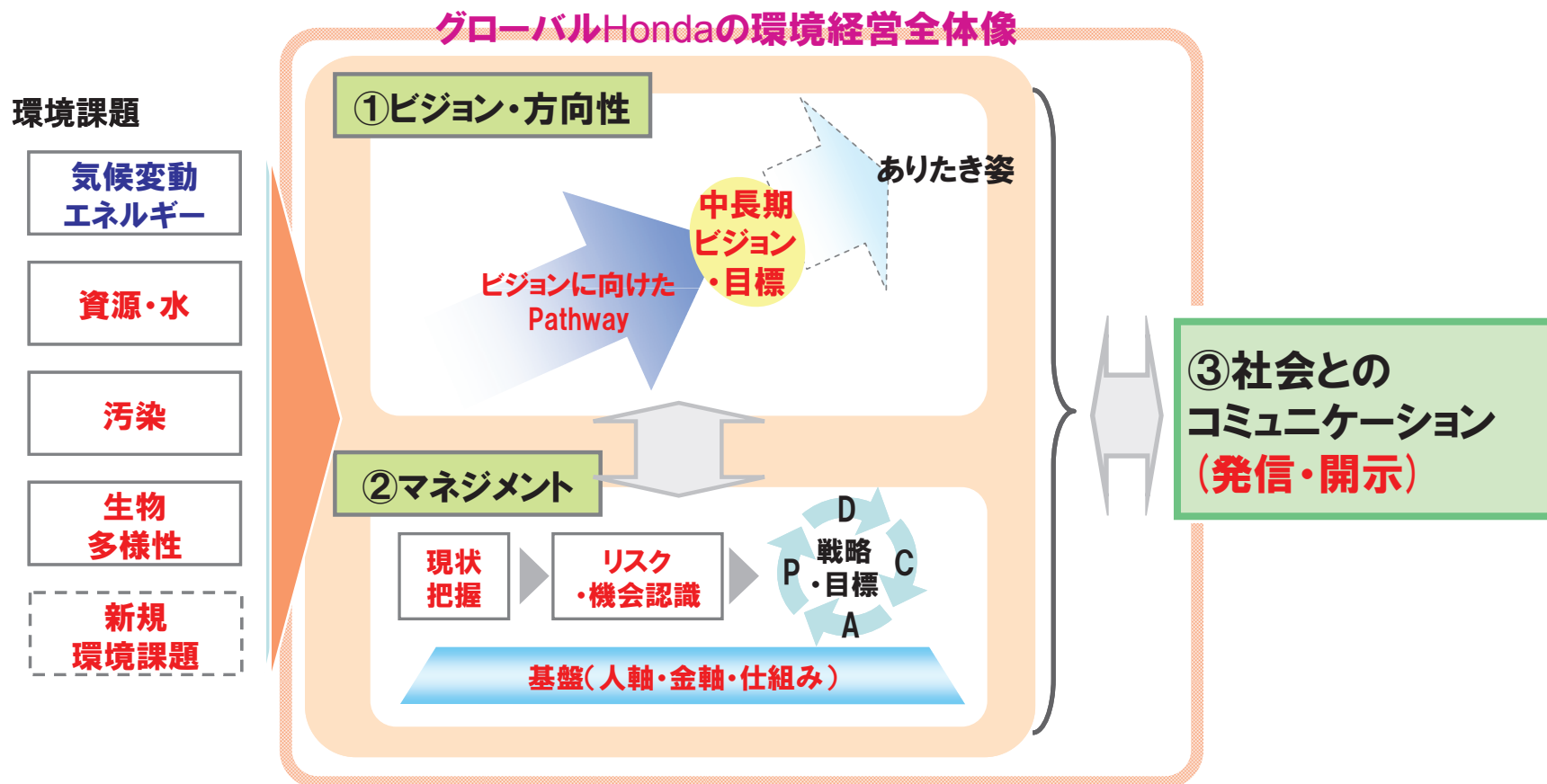
⇒ 企業の環境経営の全体像そのものであり、更に、社会への開示、その透明性、信頼性が求められる



環境課題認識を元に、方向性・戦術・施策/推進、そして社会へ発信を

●社会の評価軸(≒ 社会からの要求)

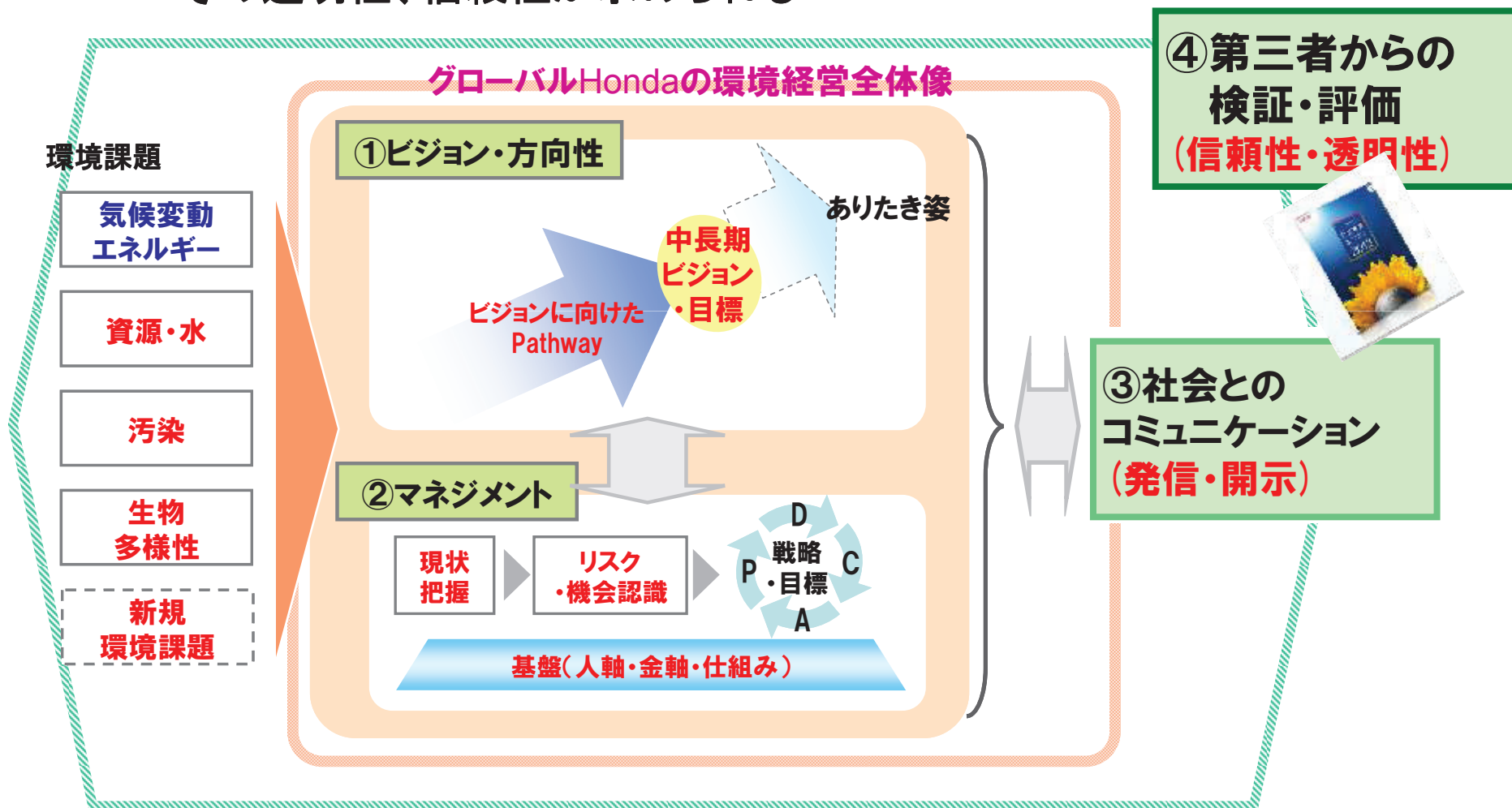
⇒ 企業の環境経営の全体像そのものであり、更に、社会への開示、その透明性、信頼性が求められる



Hondaの環境活動を、①ビジョン・方向性、②マネジメント、そして③社会とのコミュニケーションを体系化

●社会の評価軸(≒ 社会からの要求)

⇒ 企業の環境経営の全体像そのものであり、更に、社会への開示、その透明性、信頼性が求められる



社会の要請に応え、④第三者からの検証を受け、環境活動の信頼性・透明性を確保



## 「企業情報(財務/非財務)」の開示

外部機関による企業評価  
(インタビューやアンケートなど)

顧客

学生

従業員

専門家

その他

情報の裏を確認

取組の結果は、CDPや日経環境経営度調査でも高評価へ

~ '94 '95 '96 '97 '98 '99 '00 '01 '02 '03 '04 '05 '06 ~

## 世の中の動き

- ▼ 第1回エコバランス国際会議実施
- ▼ LCA日本フォーラム発足
- ▼ LCA日本プロジェクト

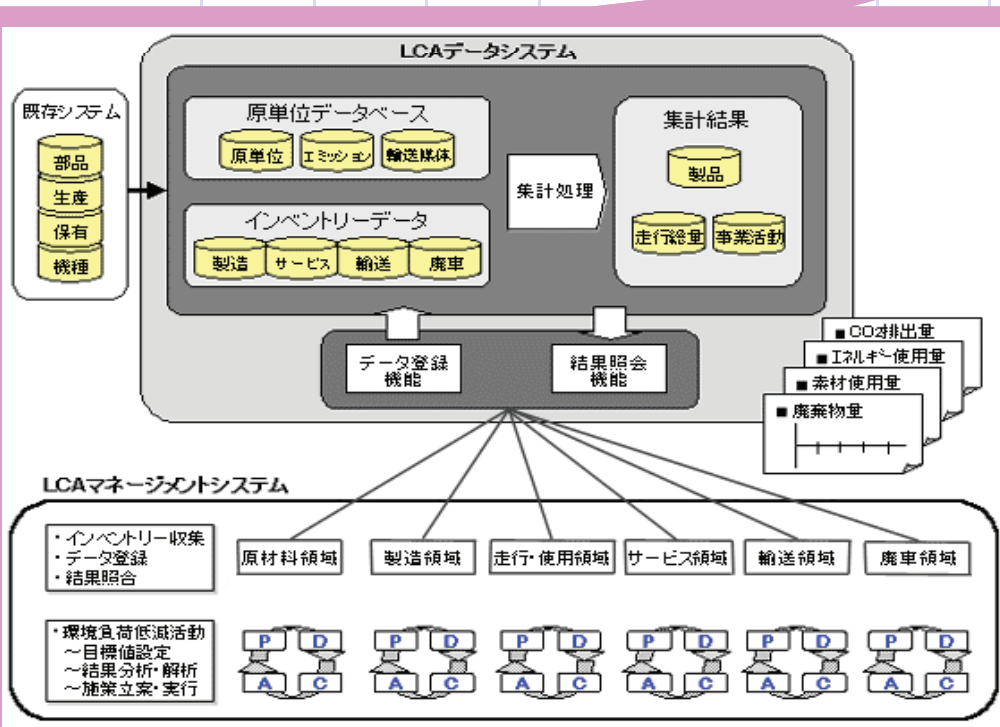
## 文献調査

## 試算検討

## 検討委員会

## 部門間プロジェクト

## Hondaの取組



## Honda LCA システム

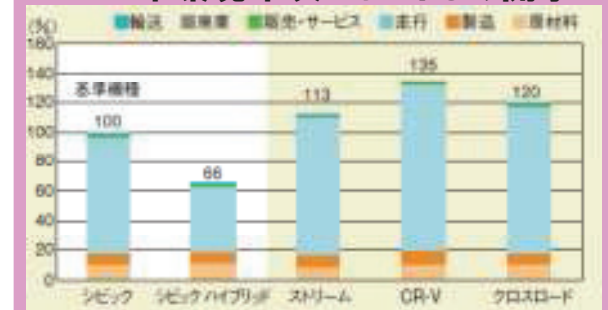
- ・データシステム
- ・マネジメントシステム

## 各領域(サブシステム)

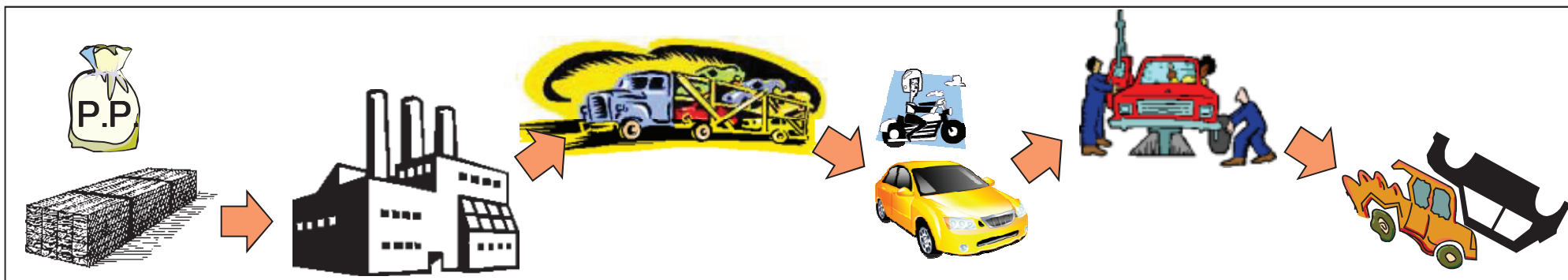
## 各地域

## 機種

2007年環境年次レポートより開示

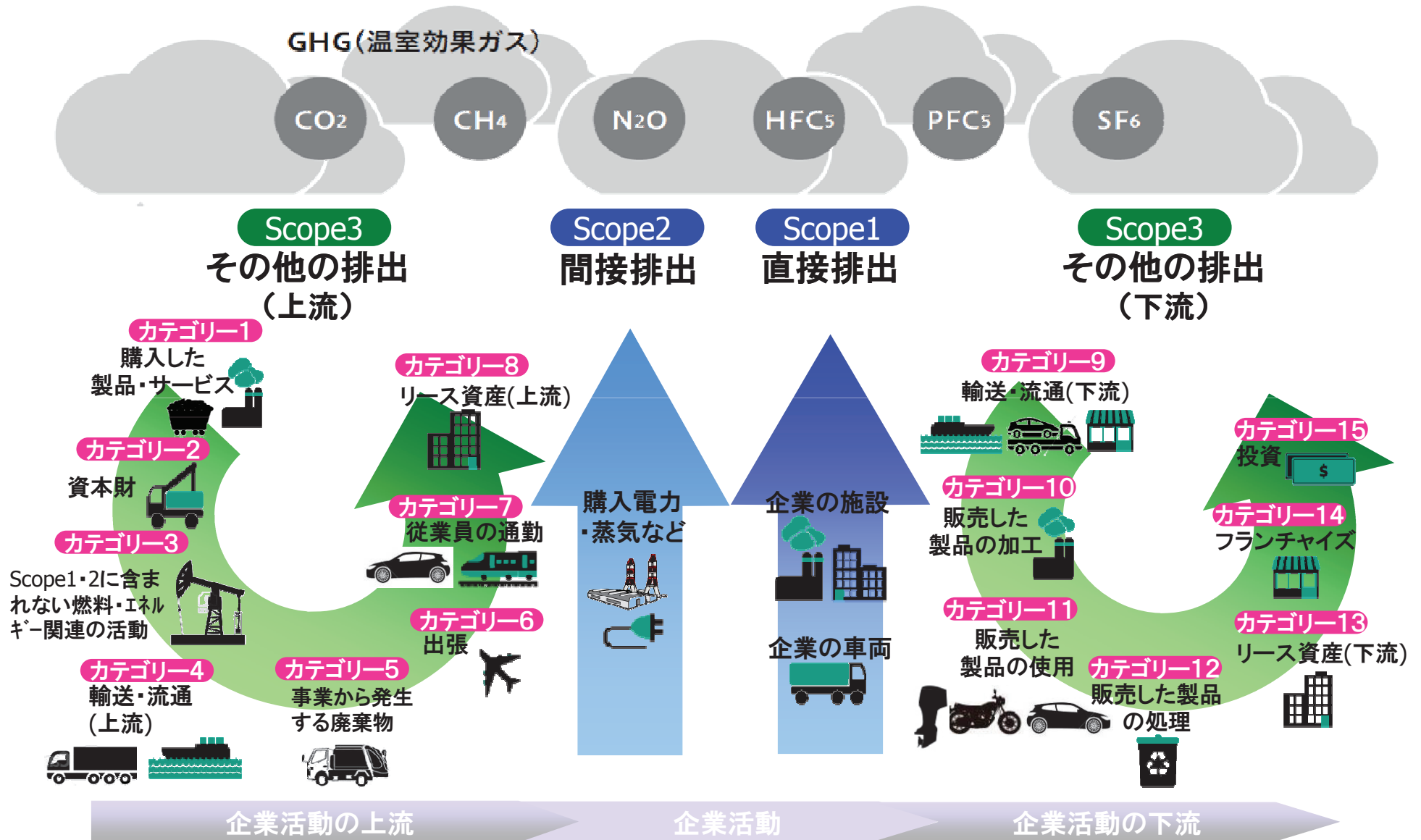






	原料採掘 素材製造	部品製造 製品製造	輸 送	走行 (使用)	サービス メンテナンス	廃車 リサイクル
ステージ	S-1	S-2	S-6	S-3	S-4	S-5
機能と役割	原材料データを正確に把握することにより、使用する原料・素材の環境負荷を低減する。	製造部門(2、4、汎)のデータを把握して源流対策を行い、環境負荷を低減する。	2、4、汎、部品、における輸送データを把握して効率向上対策を行ない、環境負荷を低減する。	各部門(2、4、汎)の商品戦略に基づく環境負荷の低減効果を定量化する。	販売・サービス領域で発生する廃棄物、電力等のエネルギー使用量を把握し環境負荷を低減する。	2、4、汎、部品各々のリサイクルデータを把握し、実効率向上と環境負荷低減を両立する。
関連部門	研究開発 購買	購買 生産	物流 営業 部品・用品	研究開発 サービス 営業 部品	サービス 営業 部品・用品	リサイクル

ステージ	S-7
機能と役割	(S-1)~(S-6)のデータを束ねて共有化できる、LCAデータベースと解析システムを構築
関連部門	各ステージリーダー・システム部門



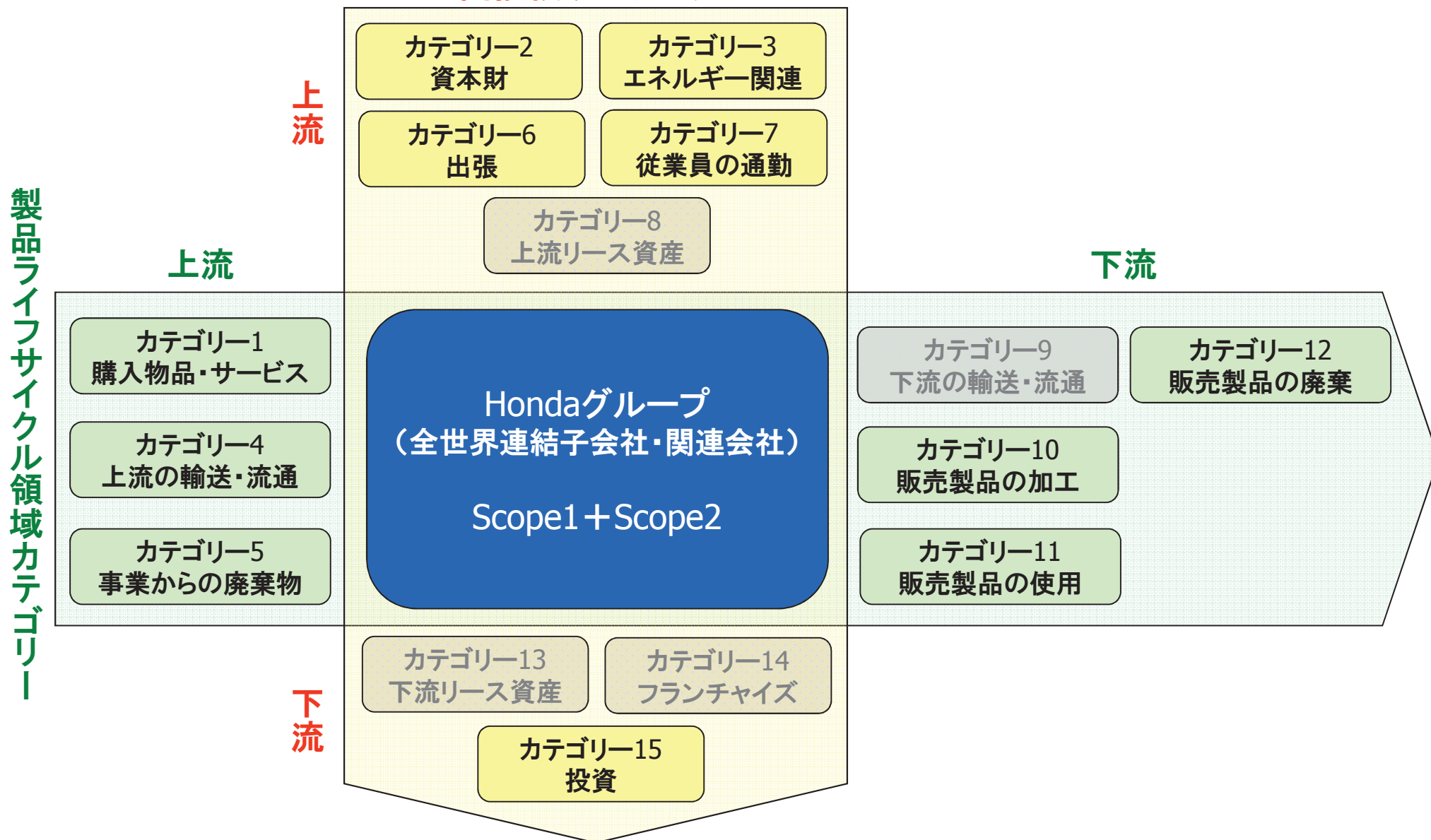
(「GHGプロトコル・イニシアティブ」はWRIとWBCSDが共催にて概算方法を定義)

その他の間接排出(SCOPE3)		
区分	カテゴリー	算定対象
上流	1 購入した製品・サービス	原材料・部品、仕入商品・販売に係る資材等が製造されるまでの活動に伴う排出
	2 資本財	自社の資本財の建設・製造から発生する排出
	3 Scope1・2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	他者から調達している電気や熱等の発電等に必要な燃料の調達に伴う排出
	4 輸送・配送(上流)	原材料・部品、仕入商品・販売に係る資材等が自社に届くまでの物流に伴う排出
	5 事業から出る廃棄物	自社で発生した廃棄物の輸送、処理に伴う排出
	6 出張	従業員の出張に伴う排出
	7 雇用者の通勤	従業員が事業所に通勤する際の移動に伴う排出
	8 リース資産(上流)	自社が賃借しているリース資産の操業に伴う排出(スコープ1・2で算定する場合を除く)
下流	9 輸送・配送(下流)	製品の輸送、保管、荷役、小売に伴う排出
	10 販売した製品の加工	事業者による中間製品の加工に伴う排出
	11 販売した製品の使用	使用者(消費者・事業者)による製品の使用に伴う排出
	12 販売した製品の廃棄	使用者(消費者・事業者)による製品の廃棄等の輸送、処理に伴う排出
	13 リース資産(下流)	賃貸しているリース資産の運用に伴う排出
	14 フランチャイズ	フランチャイズ加盟者における排出
	15 投資	投資の運用に関連する排出

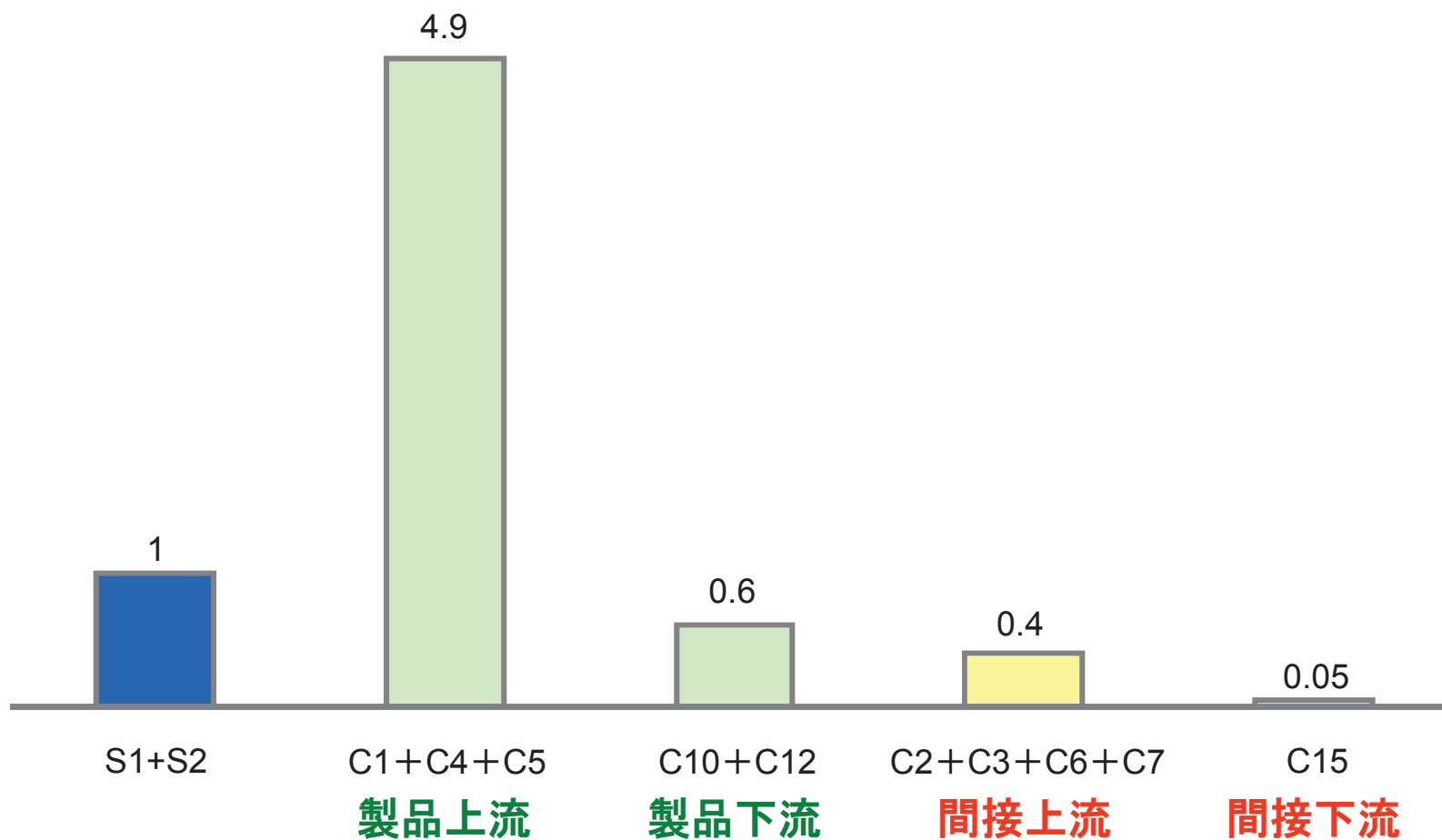
※Hondaは、スコープ3の算出から「カテゴリー8・9・13・14」を除外しています。

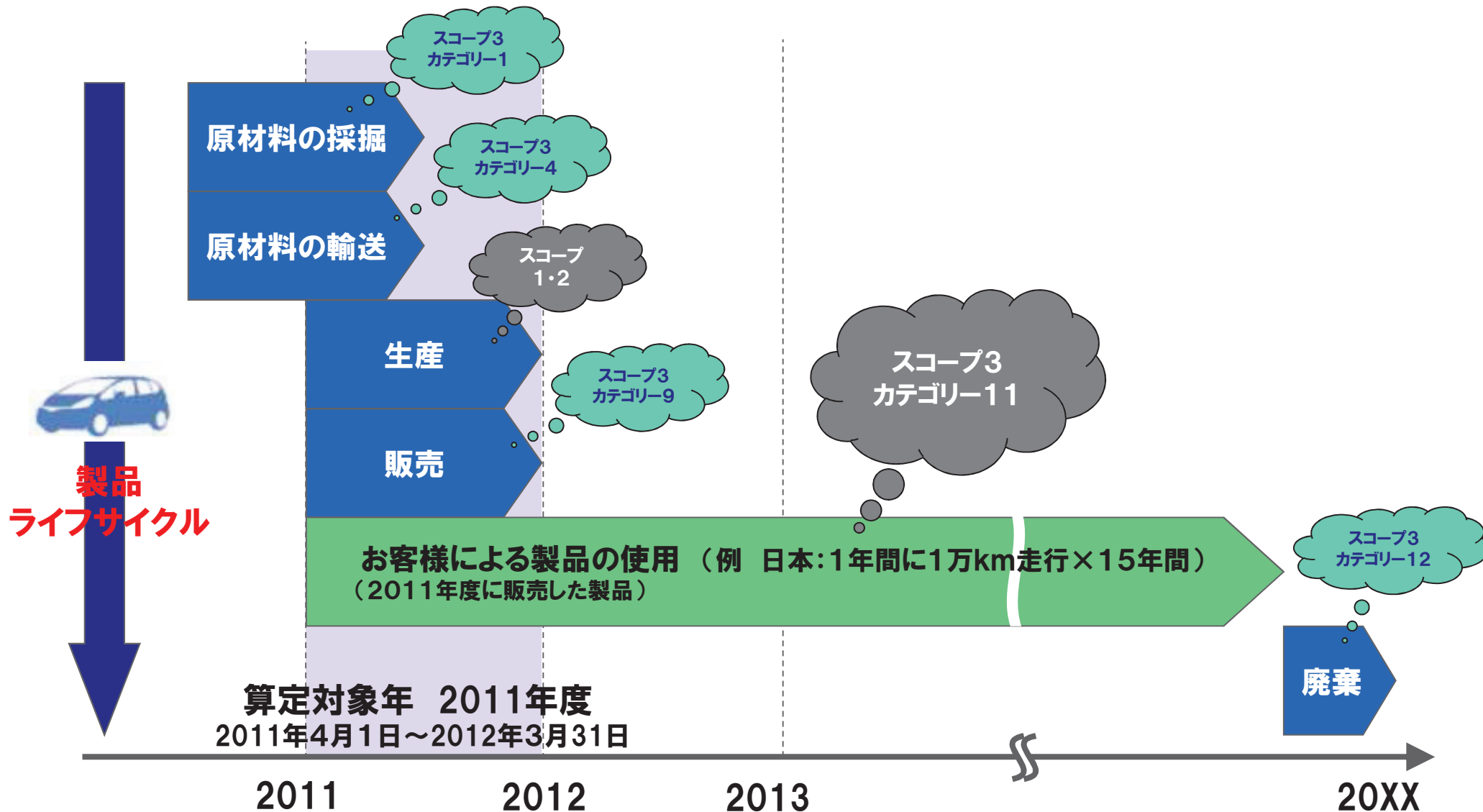
- ・カテゴリー 8:リース資産(上流)は、自社消費(スコープ1・2)で計上。
- ・カテゴリー 9:輸送・配送(下流)は、カテゴリー4:輸送・配送(上流)で計上。
- ・カテゴリー13:リース資産(下流)は、カテゴリー11:販売した製品の使用で計上。
- ・カテゴリー14:フランチャイズ店舗は無いため、対象外。

## 間接領域カテゴリー



※カテゴリー11(製品使用)除く



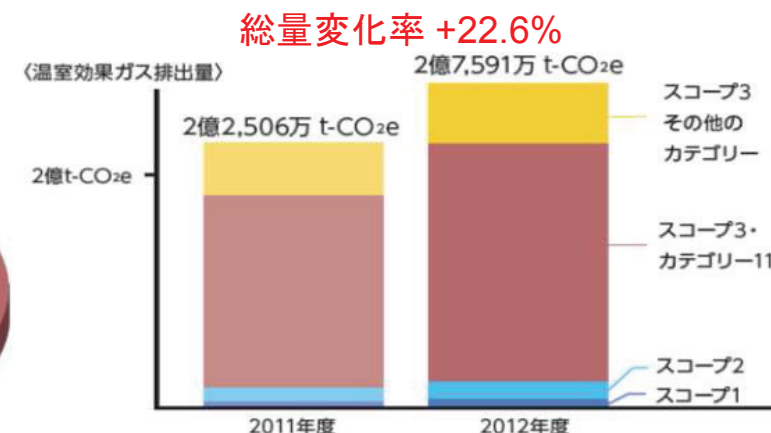
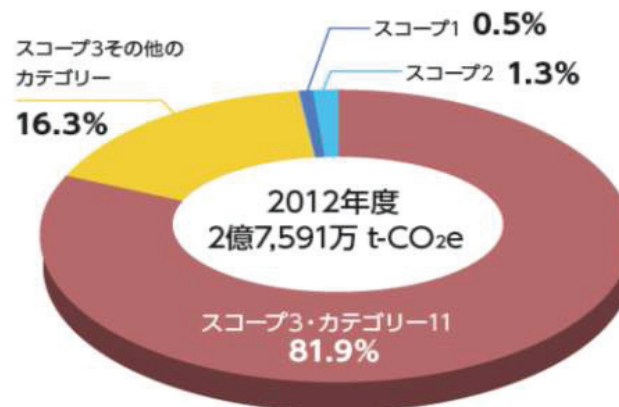
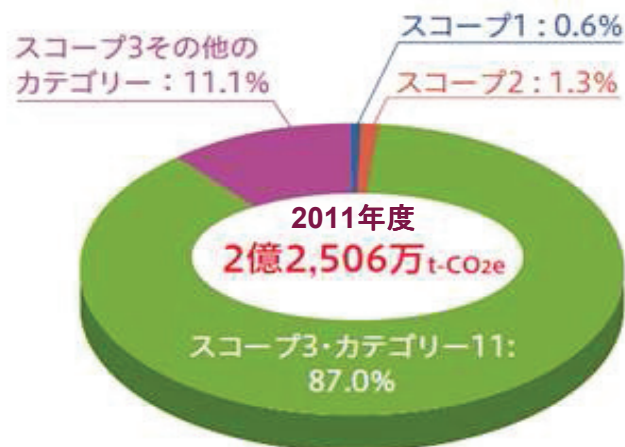


● Hondaのバリュー・チェーン全体における温室効果ガス排出量

	2011年度	2012年度
スコープ1	124万t-CO <sub>2</sub> e	141万t-CO <sub>2</sub> e
スコープ2	296万t-CO <sub>2</sub> e	354万t-CO <sub>2</sub> e
スコープ3	2億2,086万t-CO <sub>2</sub> e	2億7,096万t-CO <sub>2</sub> e
バリュー・チェーン全体の排出 (スコープ1、2、3合計)	2億2,506万t-CO <sub>2</sub> e	2億7,591万t-CO <sub>2</sub> e
このうち Hondaの企業活動による排出 (スコープ1、2合計)	420万t-CO <sub>2</sub> e	495万t-CO <sub>2</sub> e
製品使用時の排出 (スコープ3・カテゴリ11 )	1億9,588万t-CO <sub>2</sub> e	2億2,595万t-CO <sub>2</sub> e
スコープ3・カテゴリ11 以外の排出	2498万t-CO <sub>2</sub> e	4501万t-CO <sub>2</sub> e

スコープ3の算定においては、推計割合の大きいカテゴリについて、データ収集の推計精度向上のため、対象範囲を拡大したり、算出方法の精度を向上させました。

● Hondaの排出する温室効果ガスの内訳と推移



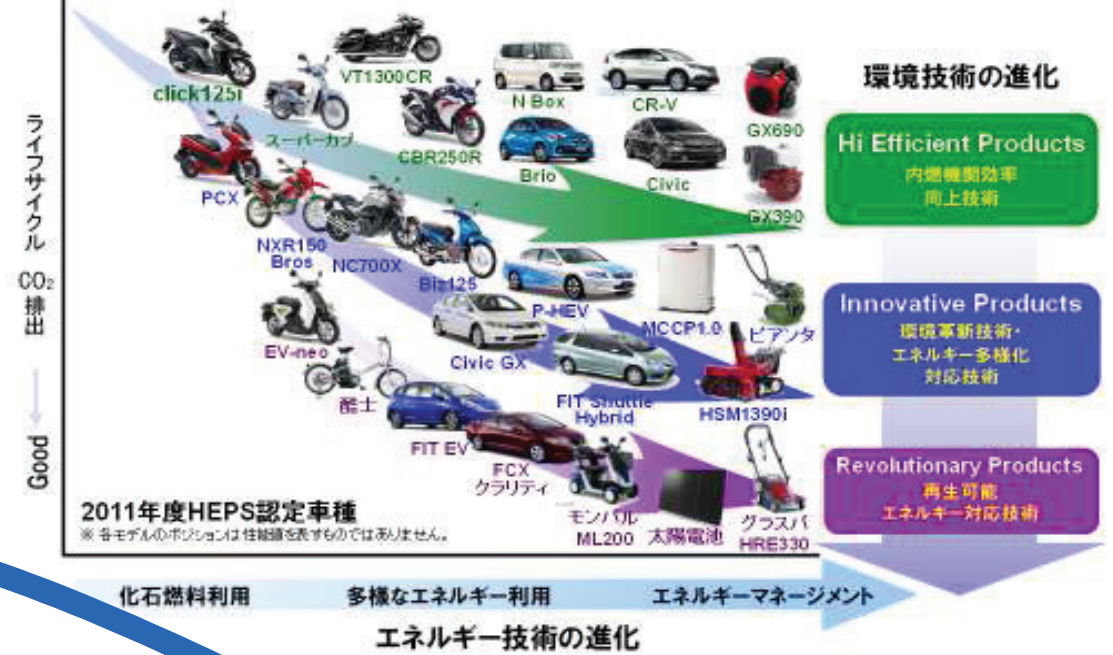
HEPS(Honda環境性能基準)の  
適合機種を拡大し総量低減を目指す

GHG排出量総量

2012年

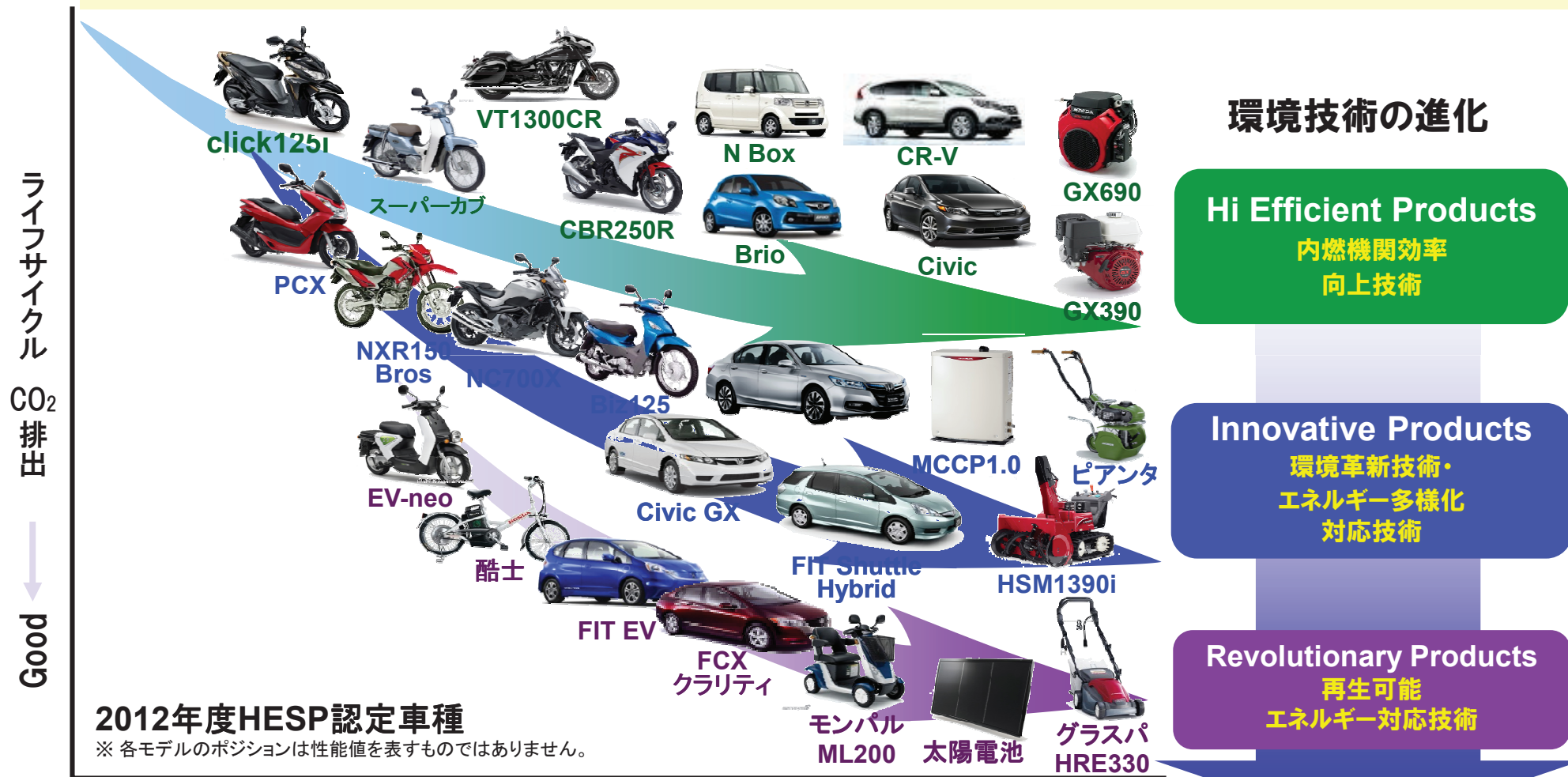
20XX

製品の燃費向上よりも  
生産量の増加の寄与度が高く  
GHG排出量総量は増加の見込み

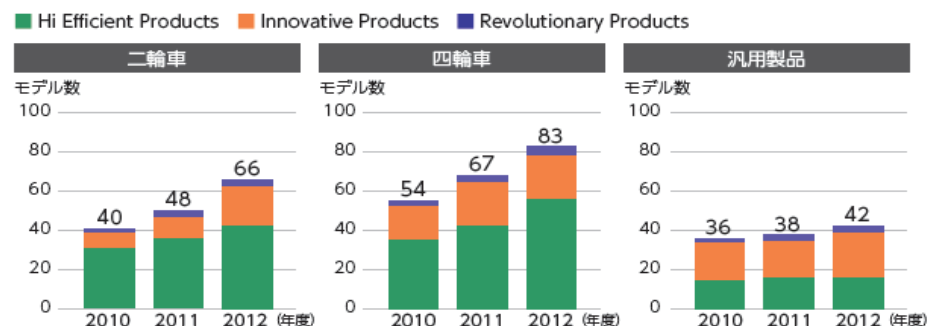




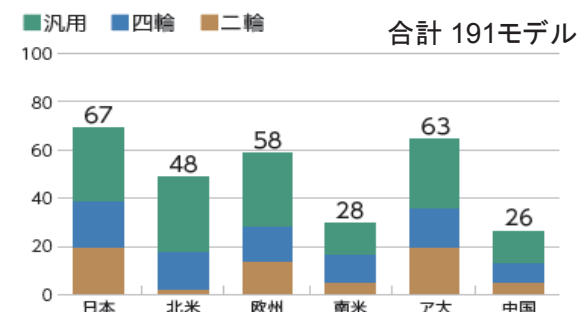
## Honda 環境性能基準 (HEPS: Honda Environmental Performance Standard)



HEPS適合モデル数の推移 (グローバル)



地域別HEPS適合モデル数 (2012年度)



2012年度 日本におけるHEPS適合モデル (例)

適合製品  
(例)

2010年以前に  
開発されて  
いるものも含む



2012年度に発売された製品の認定を行った結果、二輪車5モデル、四輪車2モデル、汎用製品1モデル、合計8モデルを新たにHEPS適合製品として認定しました。

その結果、累計では二輪車20モデル、四輪車19モデル、汎用製品28モデル、合計67モデルがHEPS適合製品となりました。

HEPS適合モデル数の推移 (日本)



## 「自由な移動の喜び」と 「豊かで持続可能な社会」の実現

Realizing “ the joy and freedom of mobility ” and  
“ a sustainable society where people can enjoy life ”

Hondaは、2020年に向けて「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」という方向性を定め、また、すべての人が、心から安心して、どこへでも自由に移動することができる社会をつくることを目指して、「Honda環境・安全ビジョン」を定めました。このビジョンには、パーソナルモビリティに関わる製品・サービスを通して、お客様に感動を提供し続け、社会の永続的な発展と調和に貢献していきたい、というHondaの強い想いが込められています。



**Safety for Everyone**  
すべての人の安全をめざして

Hondaグローバル安全スローガン・ロゴ



BLUE SKIES FOR  
OUR CHILDREN  
子供たちに青空を

Hondaグローバル環境シンボル

Hondaは今までも、これからも  
お客様に役立つ価値と楽しさを  
提供し続け、さらに信頼され  
愛される会社を目指します。

**Thank you!!**

